

# 健忘と集中力低下に抗して、隙間時間の活用と繰返し勉強法で技術士を目指す

— 技術士（上下水道部門） —

## 1. 受験の動機、経緯

職場において若手技術者を指導する立場にある者として、自信をもって指導を行うためには、経験だけではなく、最新の技術力の習熟が必要です。

また、「公共工事の品質確保の促進に関する法律」の施行に伴い総合評価制度が導入され、私も受注者の技術的能力を評価する者として登録されました。

受注者の技術提案を適切に審査・評価するために高い技術力を持つことが求められました。

これらのためには、技術力を証明できる資格である技術士も取得したいと考えたことが動機でした。

## 2. 健忘と集中力低下に抗した戦い

試験勉強は平成28年4月から開始しました。

私は、技術士補となるための第一次試験から挑戦する必要がありましたので、まずは平成28年10月9日の第一次試験を目指しました。

第一次試験では、適性科目、専門科目、基礎科目があります。

適性科目は技術者倫理や技術士の義務等の問題で解答が容易と感じた一方で、基礎科目の数学や化学・物理等の問題の難しさに唖然としました。

また、試験勉強を開始すると、「知識がないこと」と以上に、「物覚えが悪いこと」「勉強継続の体力・集中力がないこと」を自覚して、愕然となりました。

健忘は、加齢とともに気がかりでしたが、試験勉強の中では、覚えるべきことがはっきりするので、忘れ易いことが改めて自覚させられました。

勉強した内容を翌日には忘れてしまい、専門用語を思い出さないことが度々続くと、勉強の継続意欲も削がれて、悲しくなりました。

また、机に向かっても照明灯下の字が読みづらいうえに、体力や集中力もなく30分程度で飽きてしまう不甲斐なさに、情けなくなるばかりでした。

そこで、勉強は机上以外を活用して、通勤時や昼休み等の隙間時間を活用して毎日2時間以上を確保し、飲んで帰っても寝る前には必ずテキストを読むという、「何度も目を通し、忘れる前にまた覚える作戦」（繰返し勉強法）を遂行しました。

ダラダラとした勉強方法でしたが、早めに着手したことが功を奏して、やっとのことで平成28年12月15日に第一次試験に合格しました。

次の目標の、技術士となるための第二次試験の筆記試験は、平成29年7月17日に行われました。筆記試験は、必須科目、選択科目Ⅱ、選択科目Ⅲです。

勉強習慣を継続したうえに、必須・選択科目の16年度から28年度までの過去問題について全て模範解答を作成して、さらに、「下水道におけるICTを活用した水処理技術」や「能動的水環境管理」、「雨水公共下水道制度」等の予想問題も19問準備しました。

筆記試験前の半月間は、答案用紙に手書きで解答を書く練習も行いました。

そして、平成29年10月31日に第二次試験の筆記試験に合格しました。

口頭試験は、平成29年12月17日に東京で、10時20分から40分までの予定でした。

口頭試験では、業務経歴と受験申込書に記載した業務内容の説明から始まりました。

その後に質問されたことは、受験動機、抱負に関してや、技術士法（3義務2責務等）に関して、技術者倫理や資質向上に関してで、質問は数問程度で終了しました。

試験時間は短く感じたため、これでは絶対に不合格と落ち込みましたが、幸いにして、平成30年3月9日に第二次試験の合格の発表がありました。

### 3. 職場の先輩たち等からの激励

試験勉強を始めてから2年の間、辛くて涙を流して下を向いた時もありましたが、職場の先輩たち等から励ましや助言をいただきました。

合格まで辿り着けたのは周囲の後押しのお陰です。

## 4. 学習のポイント

### 1) 筆記試験における対策

筆記試験の突破には、解答できる多くの知識と経験を有することはもとより、文章を適切に書く能力が必要です。

まずは、過去問題について解答例を作成して、文章をまとめる能力の向上を図ります。

次に、法律や技術基準の改定、新しい法律やマニュアルなどの技術の動向について情報を集めて、予想問題を作りましょう。

筆記試験では、選択科目Ⅱが120分間に3問を2,400字、選択科目Ⅲが120分間に1問を1,800字で手書きの解答を行いますので、試験時間が短く、解答を校正する余裕や書き直しもできませんので、記入訓練は必須です。



福岡市 博多区役所 地域整備部長

くどう しゅういち  
工藤 修一

(取得した資格：技術士(上下水道部門)  
資格取得年度：平成29年度)

### 2) 口頭試験における対策

口頭試験の対策では、経歴票記載業務の内容のプレゼンテーションの練習が必要です。

筆記答案に不足があれば補充の説明を求められるので、答案の補足説明分の準備も行いましょう。

口頭試験の現場で戸惑うことがないように、準備した想定問答をもとに、面談方式により繰り返し訓練をすることも良いでしょう。

最終的には、自分自身の技術者としての力量に自信をもつことです。

## 5. 資格取得後に役立ったこと

技術士の取得により、少しばかり自分自身の技術力に自信を持つことができたように思います。

さらに、最新技術への興味が高まったことも、予期せぬ効果です。

若手技術者への指導に際しても、これまで以上に厳しく指摘するとともに、技術の細かい点まで注意するようになりました。

## 6. 受験者へのアドバイスと励まし

私は、健忘と集中力低下に苦しめられながら、技術士の資格を取得することができました。

年配の技術者の方も、諦めずに、技術士の資格取得へ取り組まれることをお勧めします。

前に向かって歩み続ける意欲が湧いてきますよ。